２－５

主題	BPSD が著しい入居者の QOL 向上を目指した取り組み（一事例）
副題	寂しがりな A 氏に寄り添ったチームケア

キーワード１　認知症ケア	キーワード２　チームケア	研究(実践)期間	７ヶ月

法 人 名	社会福祉法人　練馬区社会福祉事業団
事業所名	上石神井特別養護老人ホーム
発表者（職種）	國井紗花（介護職員）
共同研究(実践)者	佐藤恵美（介護職員）

電　話	03-5903-3051	ＦＡＸ	03-5903-3052

今回発表の事業所やサービスの紹介	平成２５年５月に開設。上石神井特別養護老人ホームは入居定員３０名、ショートステイ定員６名全室個室のユニット型特別養護老人ホームです。お一人おひとりの個性を大切にし、生活習慣や慣れ親しんだ暮らしを尊重し、個々の生活リズムにあった支援をしています。

《１．研究(実践)前の状況と課題》

Ａ氏　７９歳　女性　介護度４
平成２５年５月　上石神井特別養護老人ホームに入居される。寂しがり屋で人と一緒に過ごすことを好まれる。
＜既往歴＞
平成１９年　脳梗塞　麻痺、失語等なし
平成２０年９月　アルツハイマー型認知症
平成２３年１１月　右膝蓋骨折
平成２７年１０月　左大腿骨頚部骨折

・連日、昼夜不眠の日が多かった。
・様々な物を収集し歩かれる、他者の居室に入る、等落ち着いて過ごす時間が少なかった。
・食事摂取量が不安定で体重減少傾向であった。
・トイレ以外の場所で排せつされることが増えた。

《２．研究(実践)の目的ならびに仮説》

・生活リズムを整え、日中活動的に過ごし、夜間は安眠できる。
・人と過ごすことがお好きな A 氏が安心できる日中の過ごし方を見つける。
・食事量の安定と体重維持を図る。
・トイレのサインを見逃さず、トイレでの排せつの継続ができる。

最大の目的はこの事例を通して、チームが効果的な認知症ケアを行なえることである。

無断転載・複製を禁じます。

《3．具体的な取り組みの内容》

Ａ氏に関わる職員が詳細な記録を取り情報の共有を図った。記録をもとに毎月事例検討会を行ない、以下のように取り組んだ。

①不眠の原因を追究。

就寝～起床時間の記録、不眠時の言動の記録を取った。

②日中の過ごし方の見直し。

隣ユニット職員や看護師も協力し、一緒に体操や歌を歌って活動的に過ごしていただいた。落ち着ける環境作りとしてリビングのソファのレイアウトを変更した。

③食事形態の変更。

パン粥・介護食で食べやすい形態にした。ご家族持参のおやつを毎日提供した。水分摂取量 1300cc を目標とした。

④排せつパターンの把握。

施設見取り図を使用し、排せつされる時間と場所の把握を行なった。

《4．取り組みの結果》

９月の事例検討会にて半年の取り組みを以下のように振り返った。

①不眠の日は旦那様の面会された日や便秘が関係していることがわかった。面会日は職員が普段以上に意識してＡ氏と関わりを持つようになった。10 日連続で良眠されるようになった。

②日中身体を動かし、人と一緒に過ごす時間が増えた。ソファで仲の良い入居者と一緒に過ごされる時間が増えた。

③食事・水分摂取量が全体的に増加した。身体が元気になったことで言葉が増えた。表情が明るくなった。

④約１時間半おきに排尿あり、排便は午前中の朝食～１０時頃に多いことがわかった。タイミングに合わせてトイレにご案内し排せつできることが増えた。

《5．考察、まとめ》

食事や水分が摂れるようになることで身体が元気になり、良い影響があることがわかった。摂取量が安定することで活気がでて日中の活動量が増加し良眠に繋がった。さらに排便リズムも整った。

ユニット職員だけではなく他ユニット・多職種と連携して関わりを持つことで総合的に改善された。職員全員で取り組んできた認知症ケアの効果を実感することができた。

平成 27 年 10 月、転倒により左大腿頚部骨折され現在は車いす使用されている。

入院により ADL が低下したが、退院後もこれまで学んだことを活かしたケアを継続して ADL が向上した。

《6．倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7．参考文献》

「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」

《8．提案と発信》

介護現場では多くの職員が交代勤務しており、ケアの統一が困難です。記録を促すこと、情報共有することで統一を図りました。

一つの事例を通して、チームが適切な認知症ケアを行なえるようになりました。その方の QOL が向上した研究内容です。適切にアセスメント→事例検討→モニタリングを繰り返すことで、認知症高齢者の課題解決へ繋がります。

無断転載・複製を禁じます。